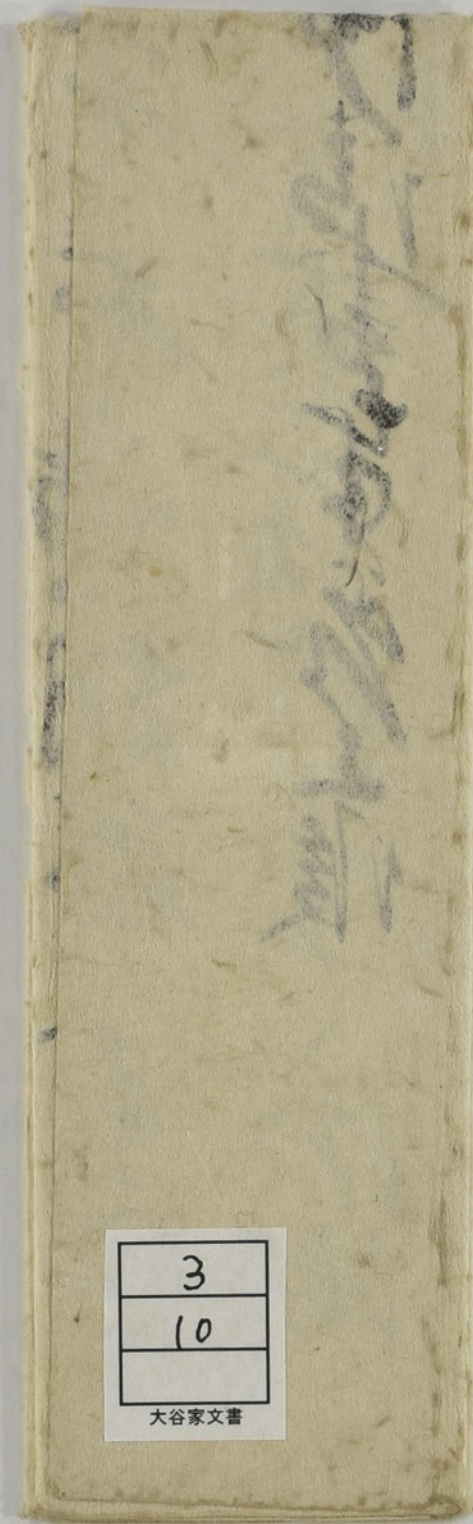




【大谷家文書】 3-10

3
10
大谷家文書



一
元和四年
御公儀様
御奉書
幸御戴

竹塢渡海仕彼鴻而市勢先渡也仕朱翬
李公海東元祿年中市鴻胡餅人而食
渡海仕朱翬之先其後竹塢也渡海
後制棟之為傳別 冲奉書石以工山
新長矣故業失之是北仕俗語既而之市知
乃思遠

台德院様御代

常憲院様迄

御代様にも、勤くお禮申し上げる者なれども、
 万々憐愍則、御下城下持参は来り、以て實馬、
 重賞、同座、儀家、源末、爲、御守り、至重なる
 故也。仕子、長井、御右守、御左衛門、家重、
 爲、御後、御同見、爲、御守り、右、以、
 爲、御守り、爲、
 幸、中、上、山、爲、

元文二年 東九月六日

大谷九尾

上野宮様御坊官中

萬里路民休慼